

2021年度 事業計画 及び 収支予算書

I 2021年度 事業計画

2020年度は、2020年1月に中国の武漢市に端を発した新型コロナウイルスによる感染症の世界的蔓延により、九州交響楽団においても自主公演7公演の延期や依頼公演49公演の中止、2公演の延期など、7月17日に第387回定期演奏会を再開するまでの5か月間、全ての演奏活動を自粛するという、これまで経験したことがない状況に陥った。

また演奏会再開後も、指揮者やソリスト、プログラムの変更、更には入場制限に伴う座席の移動、入念な感染防止対策など、全てのお客さまに多大なご迷惑とご心配をかけることとなった。

このような大変厳しい経営環境の中、福岡市に拠点を置く当楽団は、2021年度も新型コロナ感染拡大予防対策ガイドラインに則ったきめ細かな対策を継続しながら、国、福岡県、福岡市、北九州市をはじめ、産業界、個人の皆さまからの助成を頂き、公益目的事業としての演奏活動を継続することにより、良質の音楽を社会にお届けするという基本的使命を忘れることなく、創意工夫を行いながら音楽文化の普及、向上に努めていく。

また、2021年8月から2022年9月までの14か月間、「アクロス福岡」内の福岡シンフォニーホールが耐震改修工事のため休館するため、その間の公演は「福岡サンパレス」において開催する。

更に2021年度は、コンサート会場に来場できない遠方にお住まいの方やご高齢の皆さまにも、気軽に九響サウンドを楽しんでいただくために、新たにWEBを活用した公演のライブ映像配信にも積極的に取り組んでいく。

なお、公益目的事業は、九州交響楽団が自ら企画・主催する<主催公演>と鑑賞団体、企業、学校などからの依頼を受け出演する<依頼演奏会>に分けられる。

そのほか、収益事業として、CD等の販売活動を行う。

(1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画し、市民に幅広く告知・販売して公演を行うことによりクラシック音楽の魅力を市民に伝える公演である。

2021年度については福岡市で25公演、北九州市で4公演、佐賀市で1公演を実施する。

【福岡市：25公演を実施】

シリーズものの三本柱として

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)

その他の主催公演として

- ④ <三大交響曲の夕べ> (1公演)
- ⑤ <第九公演> (1公演)
- ⑥ <ニューイヤー・コンサート2022> (1公演)
- ⑦ <九響・春のこどもコンサート> (1公演)
- ⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2公演)
- ⑨ <室内オーケストラの愉しみ〜2021 夏の宴> (1公演)
- ⑩ <特別公演 オリンピック&アニメ・コンサート(仮称)> (1公演)

① <定期演奏会 9公演>

<定期演奏会>は、地域における芸術文化の発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進に努める。初演作品や実演に触れる機会の少ない音楽作品などを積極的に取り込み、九州のクラシック界をリードする芸術性を重視したプログラムをお届けする。新型コロナ禍中ではあるが、アジアをはじめ世界各国から実力ある指揮者・ソリストの招聘に努める。

● 2021年度の特徴として

- (i) 音楽監督任期9年目となる小泉和裕氏がシーズン最初の定期公演でブルックナーの最高峰と評される「交響曲第8番」(4月)で円熟の指揮を披露。第392回定期では演奏機会の少ないチャイコフスキー前期の傑作「第2番<小ロシア>」(10月)を九響初演としてお届けする。記念すべき第400回定期ではブラームスの傑作「ドイツ・レクイエム」(12月)の大作に挑む。日本を代表するソリストと九響合唱団が作品の深淵な世界を歌い上げる。
- (ii) 過去、反響を呼んだ指揮者たちが再び九響の舞台に立つ。第396回定期では、1996年の初共演で圧倒的な存在感を放ったスロヴァキアのオンドレイ・レナルトが25年ぶりに登場し、連作交響詩「わが祖国」(7月)を演奏する。
2018年、2020年の共演が喝采を浴びたカーチュン・ウォンが第397回定期に再登場し、2020年に演奏できなかったバルトーク作品「管弦楽のための協奏曲」に挑む。(9月)。
第401回定期には、2019年九響との共演が日本国内オケとの初共演となったロシアの巨匠ヴァレリー・ポリャンスキーが再登場し、チャイコフスキーの「交響曲第5番」とチャイコフスキーの高弟タネーエフの「交響曲第4番」を演奏する。(2022年2月)
- (iii) 国内外から実力ある指揮者、ソリストが初登場する。第394回定期では東京シティフィルの高関健氏が初登場し、九響定期初演となるルーセルの「交響曲第3番」のほかフランス音楽のエスプリを聴かせる。初共演のトロンボーン奏者ペーター・シュタイナーはブルジョアの「トロンボーン協奏曲」で圧巻の演奏を披露する。(5月)
第395回定期ではラトビア出身の気鋭の指揮者アンドリス・ボーガ氏が初登場。九州では聴くチャンスが少ないショスタコーヴィッチの「交響曲第15番」に取り組む。同じく初

登場の仙台国際ピアノコンクールの覇者、韓国のチェ・ヒョンロク氏はラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」で観客を魅了する。(6月)

ドイツを拠点に西欧で活躍する新進気鋭のヴァイオリニスト金川真弓氏が「第397回定期」に初登場。ブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」を聴かせる。(9月)

第399回定期にはボーダレスな活躍で脚光を浴びるピアニスト小曾根真氏が注目の若手指揮者太田弦氏とともに主催公演初登場。ガーシュイン「ピアノ協奏曲へ調」ほか、オールアメリカン・プログラムを披露する。(11月)

- (iv) 新型コロナ対策のために自粛していた合唱付の作品は、定期公演400回記念となるブラームス「ドイツ・レクイエム」(12月)のみ。合唱付作品には欠かす事のできない九響合唱団が出演する。

② <天神でクラシック 4公演>

<天神でクラシック>は、幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、各回、プログラムにテーマを設け、出演者の解説トークを交えることでクラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただく。FFGホールの特徴を考慮して小編成のオーケストラ作品の魅力を紹介する。

● 2021年度の特徴として

- (i) 各回のテーマは5月「ストラヴィンスキー」、7月「R. シュトラウス」、10月「ハイドン」、2022年1月「モーツァルト」と、新古典主義からロマン派、古典派へ時代を遡りながら、小編成のオーケストラ作品の魅力をお届けする。
- (ii) 指揮者には、期待の若手指揮者のひとり角田鋼亮氏(5月)が九響主催公演初登場するほか、人気、実力ともに日本を代表する下野竜也氏(7月)、2019年の九響との初共演で見事な弾き振りを魅せたヴァハン・マルディロシアン(2022年1月)を招聘する。
- (iii) ソリストには福岡ゆかりの新鋭、北九州市出身のヴァイオリニスト中村太地氏(5月)、九響首席トランペット奏者松居洋輔氏(10月)が登場し、中村氏はパガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第1番」を、松居氏はハイドン「トランペット協奏曲」をそれぞれ披露する。

③ <名曲・午後のオーケストラ 4公演>

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、クラシック音楽の普及を目的に、子供からお年寄りまで来場しやすい休日の午後2時に開演し、馴染みのある名曲をお届けすることで、フルオーケストラの迫力や生の演奏の魅力を実感していただく。

今期は、“他ジャンルとのコラボレーション”を通してクラシック音楽作品との素敵な出会いを演出する。

● 2021年度の特徴として

- (i) 第25回公演(6月)では、小泉音楽監督が選りすぐりの名曲小品をお届けする。ヴェルディのオペラ「運命の力」序曲をはじめ、ハチャトリヤンのバレエ組曲「ガイーヌ」やビゼーの「アルルの女」第2組曲など、耳馴染みの名曲で、クラシック・ビギナーも気軽に楽しめる音楽会とする。
- (ii) 第26回公演(9月)から会場を福岡サンパレスホテル&ホールに移して開催する。指揮・フルートのパトリック・ガロア氏が高弟瀬尾和紀氏と登場し、2曲とも九響初演となる「2本のフルートとオーケストラのためのリゴレット幻想曲」「2本のフルートのための協奏曲」をお贈りする。さらにプロコフィエフ「ロミオとジュリエット」では、美術家ティナ・オサラ氏が演奏に合わせて絵画を描くアクション・ペインティングを舞台上で繰り広げる。
- (iii) 第27回公演(11月)では、西洋のクラシック音楽と日本の伝統芸能“講談”をコラボレーションした企画。劇中の台詞を日本風にアレンジしたJ・シュトラウスのオペレッタ「こうもり」を、福岡出身の講談師 神田紅氏が名調子で語る。
- (iv) 第28回公演(2022年2月)は、同月に90歳を迎える映画音楽界の巨人ジョン・ウィリアムズの数々の名作を集めてお届けする。指揮者にはジョン・ウィリアムズのアシスタントを務めた経験を持つ原田慶太楼氏を招聘してスクリーンの熱い感動を再現する。

④ <三大交響曲の夕べ>

<三大交響曲の夕べ>は、8月に小中高校生を含む幅広い年齢のお客さまが、ドヴォルザーク、シューベルト、ベートーヴェンの極め付けの交響曲3曲「新世界・未完成・運命」を一夜にして楽しめる贅沢な企画。5回目となる2021年度は、数多くのメジャー・オーケストラとの客演を展開する広上淳一氏を指揮に迎え、福岡の夏の風物詩としての定着を図る。

⑤ <第九公演>

2020年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止せざるを得なかった市民待望の年末恒例コンサート。2021年度タクトを執るのは九響桂冠指揮者の秋山和慶氏、合唱は九響合唱団を中心とした合同合唱団が務め、人気の歌手陣がソロを担う。

⑥ <ニューイヤール・コンサート 2022>

ウィннаワルツなどを通じ、新年の華やかさを演出しつつクラシック音楽の魅力を伝え、芸術文化の普及拡大に努める。今回はNHK交響楽団コンサートマスターの“MARO”こと篠崎史紀氏が指揮とヴァイオリンの弾き振りでウィーンの香りをお届けする。

⑦ <九響・春のこどもコンサート>

未来の音楽ファンである子どもたちに「楽器体験コーナー」を通して音楽の喜びを体験していた

だくとともに、親子で本格的なオーケストラサウンドを体感することで、子どもたちの知的好奇心を育てる情操教育の一助となるコンサートを開催する。指揮には教育的プログラムにも積極的に取り組んでいる岩村力氏を迎え、親しみやすく楽しい雰囲気の世界音楽会をお届けする。

⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロス万人コンサート） 2公演>

<舞台芸術感動体験事業コンサート>は、アクロス福岡が青少年を対象として企画している公演である。2021年度もアクロスと協力し、共催事業として開催する。

⑨ <九響スペシャル 室内オーケストラの愉しみ～2021 夏の宴>

九響をさらに身近に感じていただき、クラシック音楽の普及と九響ファンの拡充を目的に昨年度から開催した<室内オーケストラの愉しみ～2021 夏の宴>を今年度も実施する。指揮者を置かないスタイルで、コンサートマスター扇谷泰朋氏のリーダーシップのもと、オーケストラメンバー一人ひとりの自発的なコミュニケーションによって音楽を盛り上げていく異色のコンサート。今年度はNHK福岡ニュースキャスターの佐々木理恵氏を進行役に迎えてモーツァルト作品を中心にお届けする。

⑩ <特別公演 オリンピック&アニメ・コンサート>

2021年度新企画として、1年延期となった東京オリンピック開催に因み、オリンピックやスポーツ関連の楽曲、世界の様々な音楽をアニメ映像付きで楽しむオーケストラ演奏をお届けすることにより、オーケストラの生演奏の魅力をご家族や親子で存分に味わっていただき、将来のクラシック音楽ファン、オーケストラファンの育成につながるコンサートを開催する。

【北九州市：4公演を実施】

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

① <北九州定期演奏会> (2公演)

② <第九公演> (1公演)

③ <ニューイヤー・コンサート2022> (1公演)

① <北九州定期演奏会 2公演>

5月公演は、九響主催公演初登場となる、今期待される若手指揮者のひとり角田鋼亮氏と2017年の第24回ブラームス国際コンクールで1位を飾った北九州市出身のヴァイオリニスト中村太地氏が共演し、パガニーニの「ヴァイオリン協奏曲第1番」で妙技を披露する。9月公演は、フランスを代表するフルーティストで指揮者のパトリック・ガロア氏が愛弟子で北九州市出身のフルート奏者、瀬尾和紀氏と共演、F.&K.ドップラー「2本のフルートとオーケストラのためのリゴレット幻想曲」、

ハチャトゥリアン「フルート協奏曲」をお届けする。

② <第九公演>

福岡公演と同じく九響桂冠指揮者の秋山和慶氏がタクトを執る。合唱は「北九州市民フロイデコール」がその任を担う。

③ <ニューイヤール・コンサート 2022>

福岡公演と同じく、北九州市出身でNHK交響楽団コンサートマスターの“MARO”こと篠崎史紀氏が指揮とヴァイオリンの弾き振りでウィーンの香りをお届けする。

【佐賀市：1公演を実施】

① <特別公演 オリンピック&アニメ・コンサート>

2021年度から、九州各県での定期公演開催実現を視野に入れた活動を展開する。その皮切りとして、福岡市で開催する新企画の表記公演を、佐賀市においても実施し、オーケストラの生演奏の魅力をご家族や親子で存分に味わっていただくことにより、佐賀県における九響の認知度向上を図るとともに将来のクラシック音楽ファン、オーケストラファンの育成につなげていく。

(2) 依頼公演

依頼公演は、<主催公演>以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートである。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、ほとんどの依頼公演が中止となり、楽団経営に大きな打撃を被った。

2021年度の大きな依頼公演は、平成17年度から始まった「福岡県市町村振興協会」主催の中学生を対象とした公演「中学生の未来に贈るコンサート」である。本事業も2020年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から1年間公演中止となったが、2021年度は新たな契約（3年間）の1年目として50公演を実施する。

また2021年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」に採択されたことにより、10月と11月の2回に分けて計8公演を北部九州エリアで実施する。

コロナ禍の中、依頼公演の受注が難しい状況ではあるが、公演依頼先からお声掛け頂いた場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏も実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会（11公演：福岡市9公演、北九州市2公演）

福岡市での

<定期演奏会>（9公演）

北九州市での

<定期演奏会>（2公演）

[2] 巡回演奏会（12公演：福岡市10公演、北九州市2公演）

福岡市での

<天神でクラシック>（4公演）

<名曲・午後のオーケストラ>（4公演）

<第九公演>（1公演）

<ニューイヤー・コンサート2022>（1公演）

北九州市での

<第九公演>（1公演）

<ニューイヤー・コンサート2022>（1公演）

[3] 特別演奏会（7公演）

福岡市での

<三大交響曲の夕べ>（1公演）

<舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロスー万人コンサート）>（2公演）

<九響・春のこどもコンサート>（1公演）

<九響スペシャル 室内オーケストラの愉しみ～2021 夏の宴>（1公演）

<特別公演 オリンピック&アニメ・コンサート>（1公演）

佐賀市での

<特別公演 オリンピック&アニメ・コンサート>（1公演）

[4] 移動音楽教室（1公演）

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する<依頼公演>の一つであるが、
《移動音楽教室》として分類している。

[5] 依頼演奏会（127公演：オーケストラ公演：97公演、室内楽演奏：30公演）

<参考> 公演数一覧

	2021 年度計画	2020 年度計画	2020 年度実績 (見込)	計画増減
定期演奏会	11回	11回	12回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	10回	増減なし
特別演奏会	7回	5回	6回	2回増
移動音楽教室	1回	1回	2回	増減なし
依頼演奏会	97回	79回	33回	18回増※
合計	128回	108回	63回	20回増

※ 中学校公演18回増

<参考> 2020 年度公演

	計 画	実 績 (見込み)	増減内訳
定期演奏会	11回	12回	・ #388 : 1回増
巡回演奏会	12回	10回	・ 第九公演 : 2回減
特別演奏会	5回	6回	・ 春子ども : 1回増
移動音楽教室	1回	2回	・ 大濠中学校公演 : 1回増
依頼演奏会	79回	33回	・ 依頼演奏会 : 22回減 ・ 中学生公演 : 32回減 ・ 文化庁公演 : 8回増
合計	108回	63回	